

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会 議 名	姫路市地域医療連絡会議（令和元年度第1回）
2 開催日時	令和2年2月13日（木曜日） 13時30分～14時30分
3 開催場所	姫路市防災センター5階 災害対策本部会議室
4 出席者又は欠席者名	委員 14名（欠席者1名）、オブザーバー 8名（欠席者1名）
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、0名
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 議題<ol style="list-style-type: none">(1) 姫路市の救急医療方策に関する指針の進捗状況について(2) 新県立病院整備の進捗状況について(3) 医療情報連携のあり方研究会について3 閉会
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

	<p>1 開会 (13 : 30)</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 姫路市の救急医療方策に関する指針の進捗状況について 資料 1、参考資料 1</p>
座長	<p>休日・夜間急病センターの医療従事者確保策について情報提供や意見はあるか。</p>
A 委員	<p>休日・夜間急病センターにおける、内科医師の確保のために、市と共に神戸大学へ出向いた。今後、姫路市と神戸大学若しくは姫路市と医局間で強いパイプを作り、教授が変わっても継続的な出務医の派遣をお願い出来るような関係を作って欲しい。</p>
副座長	<p>先行している病院や神戸大学が行っている方式を念頭に置きながら、検討を進めたい。</p>
座長	<p>その他意見はあるか。働き方改革を進める中で非常に大きな問題であると考えられるかどうか。</p>
B 委員	<p>10 年前より小児科については、危機感を持っており、神戸大学と川崎医科大学の医局と連携して、出務医の確保を進めてきた。現在は、内科医についても同様の問題が起きている。患者数で言えば小児科より内科の方が多い。その中で、A 委員の尽力により、神戸大学より出務医の派遣を頂けるようになったことは、とても大きな事だと考えている。</p> <p>また、休日・夜間急病センターの常勤医については、希望者がいない状況であるので、雇用条件の見直しを行い、募集を行っていきたいと考えている。</p> <p>また、休日・夜間急病センターでの新型コロナウイルスについての状況を報告したい。2 月当初に 2 名の患者より検査を行って欲しいとの話があり問診を行ったが、検査の必要もなく対応を完了した状態だ。その後は、問い合わせもなく、来院もない状況という事を報告しておく。</p>
座長	<p>電話相談の広域化についての経過はどうか。</p>
B 委員	<p>電話相談員 12 名体制はそのまま電話相談の広域化を開始したが、不応対応の事例はほとんど起こさずに対応出来ている。</p> <p>ただ、西播磨については、電話でのアドバイスで後送医療機関に行くよう伝えるも、実際に夜間対応が出来る病院は少ない。そうなれば、休日・夜間急病センターで受けるという事になるが、西播磨北部であれば車で 1 時間以上を要することもあり、その点が問題と感じている。</p>
座長	<p>次に、年末年始などの繁忙期の対応についてはどうか。</p>
B 委員	<p>過去は小児科が非常に忙しい時期があり、10 年前より 2 名体制を取ってい</p>

	<p>る。しかし、現在は、内科の患者が増加している。特に高齢者の患者については、現病歴の聞き取りや検査が多く、後送医療機関へ繋ぐ必要があるか判断するために時間を要する。また、薬の処方を受けるまでの待ち時間も非常に長くなっている。そのため、3年ほど前から内科医師のマンパワーの増員に取り組んでいる状況だ。</p> <p>その効果は今年度の年末年始より現れており、今までであれば待ち時間が6時間を超えることもあったが、今年度は3時間程度に留めることが出来た。</p> <p>医師確保に努める必要もあるが、医師を確保しても建物の容量に制限があるため、診察室の確保も課題となる。また、医師が増えてサービスが向上すると、患者も増えてしまうという現象が生じてしまう。サービスの向上が医療従事者の首を絞めてしまう事にもなりかねないため、その点も踏まえて今後の医師確保についての検討を行う必要があるのではないかと考えている。</p> <p>(2) 新県立病院整備の進捗状況について</p> <p>資料2-1、2-2、参考資料2、参考資料3、参考資料4</p> <p>座長 新県立病院の機能等の検討状況について、Cオブザーバーより説明を頂く。</p> <p>Cオブザーバー 新県立病院の状況について説明させて頂く。新県立病院は、「救命救急医療」、「地域で活躍する人材の育成」を最重要ミッションとしている。病院については今年度起工式を行い、令和3年11月に完成する予定で、現在は掘削作業と免震工事を行っている状況だ。順調に工事は進んでおり、令和4年度の上期には開院出来る予定としている。</p> <p>人員については、医師数は約280名、看護師は約800名を予定しており、その確保に向けて取り組んでいる状況だ。</p> <p>病院としては、急性期の救命救急を行うことが非常に重要な役割と考えており、3次救急患者を広域から受入れ、受入れを断る事のないような体制としたいと考えている。2次救急については、輪番としての機能を確保する事が最重要課題と考えている。そのため、救命救急センターで働く救急医の確保に取り組んでいるところだ。</p> <p>また、病院の隣に教育研修棟が建設されるが、この場では、若い人材の育成、教育を行う予定としている。そのため、神戸大学、兵庫県立大学や獨協学園と研究や教育内容についての協議を進めているところだ。</p> <p>今後も引き続き、ご協力をお願いしたい。</p> <p>座長 新県立病院の進捗状況について、質問や意見はないか。</p> <p>看護師宿舎の話が事務局よりあったが、看護師については全国より募集を行う予定か。</p> <p>Cオブザーバー その通りだ。現在、製鉄記念広畑病院と姫路循環器病センターの看護部と事務職員が手分けを行い、全国の看護学校や大学へ説明を行っているところだ。</p>
--	--

	<p>(3) 医療情報連携のあり方研究会について</p> <p>資料3</p>
座長	<p>医療情報連携については、行政と地域の医療機関が連携を行い進めて行くには、課題が多いと聞いている。その中で、Human Bridge を活用した医療情報連携を実際に取り入れているDオブザーバーから意見を伺いたい。</p>
Dオブザーバー	<p>当院は6年前よりシステムを導入し、現在2世代目となっている。我々がこのシステムを導入した理由は、この地域の医療の質を向上させるためだ。</p> <p>このシステムはカルテの情報共有を行う中で、自分たちが記載したカルテを他の医師が閲覧することが可能となる。そのため、自分たちがしっかりとしたカルテの記載を行う事が必要となる。その中で導入当初は、当院に在籍する医師のカルテ記載能力の向上も見込めるのではないかと考えた。</p> <p>当院導入後、他の病院でも広がりを見せるものと考えていたが、そこまでは広がっていない。しかし、我々は独自に10病院程度で連携を行い、システムの試行錯誤を繰り返し、現在、ノウハウを高めているところだ。</p>
座長	<p>マイナンバー等に介護保険証や国民健康保険証のデータを入れることなども研究会で整理していくものだと思うが、副座長より意見を頂きたい。</p>
副座長	<p>研究会というネーミングにこだわっており、こういったものでないといけないという考え方ではなく、地域で実践されている事例を学びつつ、国の動向も取り入れた内容で姫路市独自のものを検討出来ればと考えている。</p> <p>情報連携システムの導入は難しく、導入している自治体でも10%程度しか活用出来ていないという報道もある。実際に地域で有効に活用されないと意味をなさず、ハードウェアの費用負担だけが生じてしまう。</p> <p>まずは、先行事例を検証し、その中で一部先進的な取り組みも反映させることが出来れば良いのではないかと考えており、みなさまにもご協力をお願いしたい。</p>
座長	<p>医療情報連携について新県立病院ではどのように考えているか。Cオブザーバーより意見を頂きたい。</p>
Cオブザーバー	<p>先ほど副座長よりお話があった通り、地域医療連携については有効にシステムを活用出来ている地域は少ないと聞いている。姫路市においては、まずは救急医療を効果的に行うためのシステム導入を検討していると伺っているため、全面的に協力を進めて行きたいと考えている。</p> <p>新県立病院は救急医療の核となる病院となるため、姫路市における医療情報連携の中でも中核を担えればと考えている。</p> <p>一般的な医療情報連携についても、市内で導入実績のある病院と出来るだけ同じシステムを用いて情報共有を行いながら、皆さんが使いやすいシステムを作るお手伝いが出来ればと考えている。</p>
座長	<p>行政の立場より、E委員よりご意見を頂きたい。</p>

E 委員	<p>医療情報連携については、全国ネットを構築する上でまずは都道府県単位からという構図はあるが、なかなか上手くできていない状況だ。</p> <p>県内においては、阪神間で運用されている「h-Anshin むこねっと（以後、阪神むこねっと）と略す」、淡路島で運用されている「あわじネット」、北播磨で運用されている「北はりま絆ネット」等がある。それぞれのシステムで立ち上げた目的や参加している医療機関が異なり、それぞれの地域課題を解決するためにシステムを構築した経緯がある。</p> <p>姫路市が検討しているシステムは救急医療に注力したものであるという事で、阪神むこねっとに近いものになると考える。</p> <p>阪神むこねっとは導入当初より、救急医療に注力しており、現在は神戸市とも連携をしている。阪神むこねっとは、患者情報共有システムも運用しているが、なかなか進んでいない状況にある。</p> <p>地域医療構想については、それぞれ圏域内での病院の役割分担や連携強化などを行うにあたり、患者情報の共有をどのように行うかが重要になると県としても認識している。また、連携に向けたネットワーク作りについても圏域内での医療体制に応じて検討頂きたいと各圏域に以前からお願いをしているところである。</p> <p>特に救急に関しては、姫路市においては市内の患者だけでなく、播磨姫路圏域から幅広く患者を受け入れている状況であるため、より広域的な医療情報連携システムを検討頂ければと考えている。また、その点について県としての協力も検討できればと考えている。</p>
座長	<p>医療情報連携のあり方研究会について、今後様々な議論が進められると考えられるが、みなさまのご協力をお願いしたい。</p> <p>続いて、全体を通しての意見等はあるか。</p>
F 委員	<p>新県立病院について確認を行いたい。建物の建築は進んでいると思うが、人員体制などはどの程度進んでいるのか。自治会として住民より質問を受けた時に分かり易く答える必要があるため、具体的に数字を用いて説明をお願いしたい。</p>
C オブザーバー	<p>正確な数字を示すことは難しいが、現在、製鉄記念広畑病院に約 90 名、姫路循環器病センター約 50 名の医師が在籍している。そのため、先ほど説明した新県立病院の医師予定人数 280 人の内、約 50%程度は確保出来ている状況である。また、大学等の関係機関へ要請を行い更に 10%程度の積み増しが出来ている状況で、合わせて現段階で 60%程度の必要医師数の確保が出来ている状況だ。</p> <p>次に看護師については、新県立病院の看護師予定人数 800 人の内 300 名程度追加で雇用する必要があるが、現段階で製鉄記念広畑病院と姫路循環器病センターに 500 名程度の看護師が在籍しているため、60%程度の必要看護師数が確保出来ている状況だ。</p> <p>また、建物については、設計については 80%完了しており、現在、詳細を詰める状況にある。また建設状況については、先ほど説明したとおり 3.3%が完了しており、基礎の免震工事を進めているところだ。</p>

F 委員	<p>現在、一番時間を割いて協議を進めている点は、病院の運用についてで、外来の受付方法の運用、入院患者に対する受け入れの運用や手術室の運用について、それぞれ検討を進めている。</p> <p>検討課題となっている運用事項についても 1/3 程度が解決に至っている状況だ。</p> <p>そのため、現段階における新県立病院の進捗状況については、問題なく進んでいると理解頂ければと考えている。</p> <p>市民の大きな期待を受けていることは理解しており、荷が重いと感ずることもあるが、全力で取り組んでいく所存だ。何か、新県立病院の事について質問がある際は、いつでも質問頂ければと考えているため、よろしくお願いしたい。</p>
G 委員	<p>承知した。</p>
G 委員	<p>民間病院と新県立病院の間の連携は今後どのように考えているか。また、当該連携については、今後どのようなスケジュールで協議を進めていく予定か。</p>
会長	<p>医師会では、医療・介護部分の連携については協議を進めているが、病院間の機能連携については、地域医療構想の推進に伴い、行政で協議を進めている状況だ。現在は、公的病院の機能連携について協議がなされており、今後、民間病院についても協議を進めることになると考えており、その際に公立病院と民間病院の連携についても協議を進めて行くことになると考えている。</p>
G 委員	<p>兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合については、民間病院の代表や兵庫県医師会の代表も入り協議を進めているが、姫路に出来る新県立病院については、そのような場がなかったように感じている。そういった点も含めて民間病院と新県立病院の間で協議の場が持てれば、良い連携が取れるのではないかと考えているがどうか。</p>
会長	<p>先ほどの意見について、地域医療構想の枠組みの中で議論を進めていく予定か。E 委員よりご意見を頂きたい。</p>
E 委員	<p>座長が説明した通り、まずは圏域ごとの公的病院を対象に機能分担の議論を進めている。しかし、県としても民間病院との連携の大切さを理解している中で、昨年より民間病院に対する調査を進め、公的病院の機能分担の議論と並行して、民間病院との連携についても議論を進めるための準備を行っているところだ。</p> <p>具体的には、昨年度より地域医療構想懇話会を設置し、県医師会と地域医療構想調整会議に参加している主な病院の先生に出席頂き、調査結果や解析内容の情報共有を図っているところで、その情報に基づき、圏域ごとに、今後どのような議論を進めるかを検討して頂いている。</p> <p>また、その中で個々の病院間の連携については、それぞれの議論の場で関係機関が集まり議論を進めて頂いているものと認識している。</p>

会長	<p>この点について、Hオブザーバーはどのように考えているか。ご意見を頂きたい。</p>
Hオブザーバー	<p>姫路の新県立病院の統合と兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合については統合再編計画を策定する時期が異なっているため、統合に伴う協議の形が違っている。しかし、姫路の新県立病院についても、医師会や民間病院協会へは事前に説明を行い対応している状況だ。</p> <p>E委員が説明した通り、公的病院と民間病院の連携については、今後、地域医療構想懇話会の中で協議が進んでいくものと考えており、必要な説明については、順次行いたいと考えている。</p>
会長	<p>地域医療構想調整会議を中心となり運営して頂いているIオブザーバーより何か意見はあるか。</p>
Iオブザーバー	<p>地域医療構想調整会議の部会において、公的病院についての機能分担について先行して議論がなされ、その内容について前月開催された地域医療構想懇話会の中のワーキングで整理がなされたと認識している。これについては、民間病院協会にもご参加頂き、議論したところだ。</p> <p>今後の方向性については、民間病院を含めた地域づくりが大切になると考えているため、播磨姫路圏域でも議論を進めていくべきだと考えている。</p>
Cオブザーバー	<p>地域医療連携推進法人を立ち上げてから3年ほど経過するが、地域医療連携推進法人の活動状況について、審査、検討して頂く評議会を設置している。評議会の開催にあたっては、民間病院協会の代表にご参加いただき、情報共有をさせて頂いているが、今後は今まで以上に情報共有を進めていきたいと考えているため、よろしく願いたい。</p>
会長	<p>民間病院の代表者には地域医療構想調整会議などにご参加いただいていたが、複数の民間病院を交えての議論には至っていない。今後、そういった議論も進めていく必要があると考えている。</p>
<p>3 閉会 (14:30)</p>	